



六本木 芋洗い坂新聞

発行所 水産経済新聞社 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番19号 電話03-3404-6531(代) FAX 03-3404-0863

2014年
(平成26年)

5/15 (木)

THURSDAY

Review

「六本木アートナイト2014」ドキュメント 『動け、カラダ!』は 自分へのメッセージ

作家と観客を繋げる
ライブパフォーマンス

きれんばかりだ。

17時30分、六本木ヒルズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

ズアリーナで行われたコ

街全体が躍動感溢れる

ムーブメントとなった

「六本木アートナイト2

014」。4月19日の夕

刻には、この日を楽し

みに集まった人々の熱気が

ピークに達し、激動の二

日間が本格的に幕を開け

た。若者だけでなく、小

さな子供の手を引く家族

連れやお年寄り、外国人

の姿も目立つ。どの瞳も

西尾氏。アリーナの風を

受け、大きくうねる布の

姿は今年のテーマ『動け、

カラダ!』そのものだ。

つ。国立新美術館では、

西尾氏が「カラダ」と

古着からボタンを集め、

つプロジェクトとして

発表する3つの作品は、

六本木界隈を中心に集め

られた古着から生まれて

いる。誰かが着古した洋

服を解体し、縫い合わせ、

文字通りひとつの作品へ

細めて眺めていた。

六本木ヒルズアリーナ

ではミシンを使ったワー

クショップが行われてい

た。古着の山から好きな

端切れを選んで、西尾氏

のいるミシン台まで持っ

てゆくと、自分が持って

きた布バッグやTシャツ

にパッチワークしてくれ

る。「今までは布を繋ぎ合

わせることで、間接的に

人と人を繋げてきました。

でも、このワークショッ

プでは人と対面し、その

人が持つてきてくれた布

に、ライブでどんな繋

がっていいか。今までの

活動の延長であり、新し

い試みです」と西尾氏。

高揚する空気の中、作家

自身もまた、新たな表現

を切り開いているのが印

象的だった。

(内田有佳)

六本木交差点を過ぎ、東

京ミッドタウンへ到着し

たパレード隊は建物の中

で散り散りとなり、あち

こちで同時多発的にパ

フォーマンスを行う。日

常の空間が非日常化する

ことにより、見るものの

動物的本能を喚起するの

か、東京ミッドタウン内

は熱気に溢れていく……。

たくさんの手拍子や掛

け声を受け、観客と一体

となったパレード隊は最

終目的の星条旗通りへ。

先ほどまでとは一転し静

まり返った一行は、観衆

がじっと見つめる前で再

び大きくカラダを動かし

始める。プロダンサーか

ら大学生、中高生、一般

参加の方までがひとつに

なり、20分のパフォーマンス

を全身全霊でやり遂

げ、大歓声のもと全行程

を終えた。観客の中には

涙を浮かべる女性の姿も

あった。そう、『動け、カ

ラダ!』は自分へのメッ

セージでもあったのだ。

カラダが動くことも動

く、心が動くことで感性

のトビラが開き、さらに

開かれた自分へと変容す

る。六本木アートナイト

のあの熱気は、アートに

より開放された人々が放

つ、「生」のパワーが生み

出したものだったのだ。

(吉田直子)

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

写真左:六本木パレード《ふわりたいながれたいつなぎた

い》一行/中央上:つぼんぎの文字も街中を行き来した

/右上:東京ミッドタウン内を縦横無尽に動く。/右下:伊藤

キム氏も沿道から応援/中央下:星条旗通りでのラストパ

フォーマンス。

写真上:「カラダひとつ工房」でミシンを踏み続けた西尾氏。/中央右:東京ミッドタウンの《花柄/花》。光に透

て花柄が浮かび上がる。/中央左:六本木ヒルズで風に揺られる《人間の家[スカート]》/下段右:国立新美術

館の《ボタン/雨》に足をとめる人が大勢。/下段左:準備作業が進められた工房跡も特別公開。

Review

「六本木アートナイト2014」ドキュメント 動き続けた、一日間！

六本木の街全体を美術館に見立て、オールナイトでアートを楽しむ「六本木アートナイト2014」は、屋内外の様々な場所で、人々はたった一夜の間に、同時に多発的にインスタレーション、ライブパフォーマンス、トークショーなど多様なプログラムを開催した。熱い心とカラダで動き続けた。



4/20 2:30-3:00

真夜中、六本木ヒルズアリーナで開催した《カラダひとつ劇場》「六本木演舞場vol.2」。近藤良平を音頭取りに、物凄い人数のオーディエンスが熱く静かに楽しく踊り続けた。



4/19 18:00-18:15

東京ミッドタウン「Mid-Space」のコアタイムは、アーティスト集団「天才ハイスクール!!!!」による開会式で開幕。「体」の文字から「一」を抜いて「休」に変異させ、「一」は「聖火」となりメンバーのランナーとともに夜の六本木を走った。



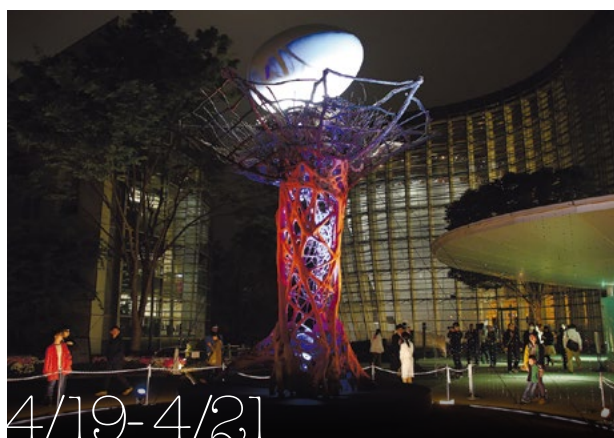
4/19 18:30-19:30

ダンスユニット・プロジェクト大山が《仮面舞踏会ーイメージの力、うごく!》と称して仮面を用いたダンスパフォーマンスを国立新美術館1階ロビーで行い、チャミングで不思議な世界観を披露した。



4/19 16:00-18:30, 21:00-

オランダから招聘したイーティングデザイナー マライエ・フォーゲルサンクによる《フィード・ラブ》は、「食えること」をテーマとした体験型プログラム。六本木ヒルズ ヒルズカフェ/スペースにて事前予約制で開催した。



4/19-4/21

いけばな小原流の家元でありアーティストとしても活躍する小原宏貴が巨木の根を用いたインスタレーション《Egg》を国立新美術館エントランス(屋外)に展示。美しく変化する照明とともに幻想的な作品世界を表現。



4/19 18:00-22:00

企画展「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」の展示作品等のビジュアルを国立新美術館外壁にプロジェクションマッピングを行った《もうひとつの「イメージの力」》。



4/19 18:30-19:30

六本木ヒルズアリーナで行われた音楽イベント《カラダひとつ劇場》「鮮やかなま 混じりあう」は、東京天水連、東京韓国打楽器研究所、プロコ・パヴァメント3組の異色な組み合わせが鮮烈なリズムを奏でた。



4/19 10:00-4/20 18:00

東京ミッドタウン キャンビー・スクエアに設置した八谷和彦《オープンスカイ:M-02J》は、宮崎駿氏原作『風の谷のナウシカ』に登場する架空の航空機「メーヴェ」の機体コンセプトを参考に作られた実際に人が乗って飛べる試作機。



4/20 11:00-18:00

東京ミッドタウン プラザ1Fに設置したアーティスト リー・ウェンによる円形卓球台《ピンポン・ゴー・ラウンド》は、来場者が実際に遊べるアート作品として昼間だけでなく真夜中も人気だった。



4/19 18:17-4/20 5:03

国立新美術館隣の政策研究大学院大学の屋外敷地にて開催した篠田太郎《月面反射通信技術》。自作の天体望遠鏡を通して捉えた世界のさまざまな都市の月と街並みのビジュアルをヘッドフォンで音楽を聴きながら鑑賞。



4/19 10:00- 4/20 18:00

人通りが多い六本木ヒルズ ノースタワー前に現れた《黒い家》。近づき耳をあてると、コンタクトゴンパによる身体論が聞こえてくる。不思議な存在感を放つ作品として注目された。



4/19 10:00- 4/20 18:00

毛利庭園の池の底面に出現した鮮やかな縞模様。アーティスト小松宏誠《鳥の様に_ディスプレイ_毛利庭園》は、自然の風や意図的に演出を施した水しぶき等により模様がざわめき変化し続ける作品。



4/19 18:17- 4/20 5:03

六本木ヒルズ 66プラザを演出したゼロバイゼロによる作品《閃光》。人の動きに反応し縦横無尽に飛び回る光たち。閃光同士が衝突し、さらなる強い光を誕生させるなど視覚的に楽しめた。



4/19 18:17- 4/20 5:03

六本木6丁目イケアガミビルでは、台湾出身の注目のアーティスト ミスターキャンドルの作品を外壁にプロジェクションした。世界各地の観光名所などで自ら逆立ちをして参加する作品スタイルはユニークで美しい。



4/19 20:00-22:00

21_21 DESIGN SIGHTでは、企画展「コメ展」関連イベントとして昨年に続き「PechaKucha」を実施。《コメ展×PechaKucha》と題し、コメにまつわる人々たちによる突き抜けたトークを展開した。



4/19 21:00-22:30

サントリー美術館では、企画展「のぞいてびっくり江戸絵画—科学の眼、視覚のふしぎ—」の特別ワークショップを3タイトル行なった。「光と影のワークショップ〜特別編〜」では、川村亘平斎氏を講師に迎え、影絵の世界を体験。



4/19 18:30-19:30-20:30-21:30-23:30-

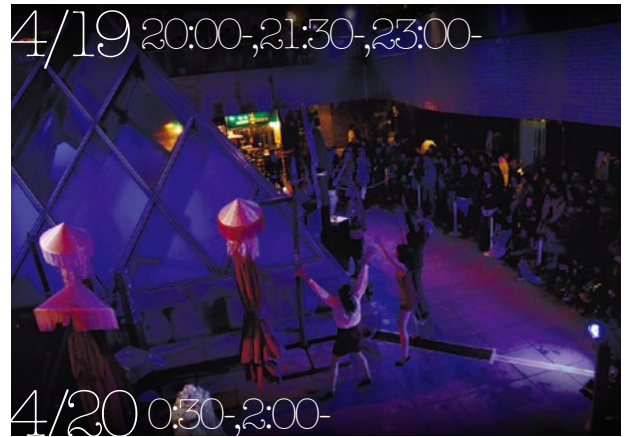
4/20 1:30-2:30-

《筋肉率39.0%の身体が宙を切る。そんなダンスです。》というタイトルでアクシズビル、ロアビル、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン等、六本木の街なかを夜通し移動しながらパフォーマンスを行ったパフォーマンス集団「んまつーポス」。



4/19 21:00-21:20-22:30-22:50-

六本木4丁目三河台公園では、新進気鋭のアーティスト2組による屋外パフォーマンス。岩淵貞太《DIVER(ダイバー)》とhyslom(ヒスロム)《Richard Funkyは石がきらい》を開催した。



4/19 20:00-21:30-23:00-

4/20 0:30-2:00-

東野祥子《世界は不在の中のひとつの小さな星ではないか?—NIGHTバージョン》。ファッションビル「ピラミデ」全体を劇場に見立て、様々なジャンルのクリエイターとともにパフォーマンスを上演した。



4/19 20:30-23:30, 4/20 3:15-

4/19 21:45-, 4/20 0:30-3:30-

ヘッドフォンを片手に深夜のリズムを刻むサイレントディスコ「クワイエット・ディスコ」は、六本木ヒルズ《カラダひとつ劇場》と東京ミッドタウン《カラダひとつ広場》で合計6回実施し毎回大いに盛り上がった。



4/19 20:00- 4/20 4:00

六本木ヒルズアリーナでは、コアタイム時間中、著名なアーティストや文化人たちが観客の相談に応じる異色のイベント《アート型人生相談「六本木の父」〜相談しよう、そうしよう。〜》を行った。



4/19 21:00-22:30-

東京ミッドタウン キャンビー・スクエア《カラダひとつ広場》でも様々なイベントを開催。六本木ヒルズ《カラダひとつ劇場》と2会場で開催された「カボエイラパフォーマンス」は、独特のリズムを放ち森羅万象と身体が呼応する内容。



4/20 13:00-15:00-17:00-

The Future+THE TRADING CITY研究所《トレードゲーム〜まちシャッフル〜》は、「六本木アートナイト2014」のラストを飾るコンテンツとして六本木ヒルズアリーナにて開催。昼間に開催し親子連れ等が楽しく参加した。



4/19 13:00-15:00-

4/20 11:00-13:00-15:00-

《ゴロゴロ六本木》は、直径3mの竹で作られた球体に人が乗り込み、東京ミッドタウン コートヤードからミッドタウン・ガーデンを移動する作品。作家である佐藤悠やスタッフたちの威勢の良い掛け声とともに注目された。



4/19 19:00- 4/20 5:00

六本木5丁目レーヌビルの一室では遠藤一郎による《ときめきティールーム》をオールナイトで開催。気鋭のアーティストを次々とゲストに迎え最高のお茶をふるまいながらのインタビュー。さらにその模様を動画配信で広く公開した。



六本木ヒルズ ウェストウォーク2Fに設置したFacebook連動型のデジタルサイネージ「teamLabCamera(チームラボカメラ)」。「六本木アートナイト2014」では、日比野克彦氏のオリジナルフレーム5タイプを用意した。カメラ設置直後に日比野氏自らも実演した。

日比野克彦も実演した チームラボ《チームラボカメラ》

六本木未来会議
アイデア実現プロジェクト#3
ふるさとシール
by 箭内道彦

六本木の美術館やギャラリー、地域の方々と手を取り合い、街全体で六本木の新たな価値を見出すべく一昨年にスタートしたWEBマガジン「六本木未来会議」のインタビュで箭内道彦氏が発表。六本木アートナイト2014開催中、都道府県の形がプリントされた「ふるさとシール」を街なかで配布。シールを入手した人たちは衣服等に貼って出身地をアピールし、同郷の人との「新しい出会い」を楽しんだ。



夜の六本木で『動け、カラダ!』。みんなで一緒にカラダを動かすと反応して光るリストバンドとマフラータオルをセットで4月19日17時から配布(参加費500円)したところ注目度が高く、あっという間に配布終了となった。



応援プロジェクト
《光って汗かいて、動け、カラダ!》



《ルミエルネ
フードコート》

六本木商店街振興組合加盟店が「動け、カラダ!」をコンセプトに展開した一夜限りのフードコート「ルミエルネフードコート」が4月19日19時より「ラビロス六本木」に登場。夜中も動き続ける人々にしばしの休憩とおいしい食事を提供し大盛況となった。



街頭フラッグ

4月4日〜20日「動け、カラダ!」と書かれた140枚のフラッグが六本木の街全体を演出した。



サッカーとアートを組み合わせた 《ヒビノカップ in 六本木》を今年も開催。

《ヒビノカップ》とは日比野氏が考案した、図工と体育を融合したレクリエーション。サッカーの試合に必要な道具「ボールとゴールとユニフォーム」は自分たちで作り、それを使用して試合を行った。ゴールは、段ボールで作ったオブジェで特別なルールが決まられている。4月20日(日)昼間、港区立六本木中学校グラウンドを舞台に参戦も観戦も楽しいプロジェクト。



「六本木アートナイト2014」無事終了! 観客の皆様有り難うございました。参加アーティストや関係組織の方々、スタッフのみなさん、お疲れさまでした。少しでも暖かい時期に、と昨年までの3月末開催を4月19日・20日にスライドしたのですが、皮肉にもなんと寒かったこと! でもその寒さを吹き飛ばして「マ『動け、カラダ!』」を具現化した様々な熱いプログラムが展開されました。

開催の度に「一晩ではもったいない」というご意見もいただきますが、私たちは「一晩だからこそできること」を大切にしています。それがイベントに熱を与え、観客の皆様にも伝わっていくのだと思います。芋洗坂新聞は、アートナイト開催前には企画の進行状況をお伝えしたり、当日には撮って出しの号外を発刊したりしながら、たった一晩のアートイベントに時間の広がりを与え、より広く知っていただくことに努めています。

今年のアートナイトでは、1月末から今回で計5号の新聞を発刊しました。

まもなく来年の準備が始まります。次回も多くの皆様と笑顔でお会いできるよう祈りつつ、一旦筆をおきます。ではまた会いましょう。来年のアートナイトをお楽しみに。

(武村 俊)

発行人◎六本木アートナイト実行委員会 編集◎芋洗坂新聞編集局/総括:日比野克彦/企画:編集:武村俊・田中美知子・西谷枝里子/企画協力:角張敏郎/編集:吉田直子/AD:内田雅之(VOLTAGE)/取材:内田有佳/他/撮影:藤田慎一郎・六本木アートナイト2014オフィシャルカメラマン(梶山アマゾン・木奥恵三・御厨慎一郎・髙部春雄[五十音順])・他 印刷◎水産経済新聞社

Review



眠らない一夜、あなたは 何を体感しましたか?



「六本木アートナイト2014」ドキュメント

《カラダひとつプロジェクト》の西尾美也氏、《六本木パレード》監修の伊藤キム氏に続き、大活躍したのが四国在住のアーティスト吉田一郎氏。《六本木パレード》の衣裳の制作を日比野克彦氏から相談された際、「130着も無理です」と一度断った秘話を六本木ヒルズアリーナで行われた「日の出トーク」で披露した。事前にワークショップで作ることになり、「ダンサーの皆さんと一緒に作れて良かった」とのこと。



国立新美術館ロビーに展示された体長26mの大作《おおぢちゃん》



写真右:六本木交差点「時計塔」デコレーション《黒潮ライター1800》

写真中:《アート型人生相談「六本木の父」〜相談しよう、そうしよう。〜》空間美術全景

写真左:《六本木パレード》の衣裳は参加者とともにワークショップで制作

六本木の街なかのレストラン、カフェ、居酒屋等に協力してもらい、アーティストや各界のプロフェッショナルが意見を交換する場「六本木夜楽会」がパワーアップして今年も登場。



今回は10組20人が参加。少人数でアーティストたちを囲み、美味しい食事を堪能しつつここでしか聞けないクロストークを楽しんだ。事前申込制で4月19日夜に開催した。



今年も人気!《第二回六本木夜楽会》



悪魔のしるし 《搬入プロジェクト》

六本木ヒルズウェストウォークで行ったパフォーマンスが異常な盛り上がりを見せた。《搬入プロジェクト》とは、巨大な構造物を指定の空間に運び入れるパフォーマンス。今回は長く歪な形の赤い物体を、ウェストウォークの一般入場口から搬入した。4月19日22時に開始し搬入終了まで2時間半以上かかった。その様子を多くのオーディエンスが固唾を呑んで見守り、少し動いたたびにため息や歓声があがった。

写真上:搬入開始前、作業員(パフォーマー)たちは準備体操を行った。下:入口を通り天井に向けて伸びていく物体を大人数が見守っている。

オールナイトで頑張った『実況中継班』

六本木にいる人々には最新の情報源として、在宅の人々にも臨場感を感じてもらうために、「六本木アートナイト2014」は、Twitter、facebook、ニコニコ動画、Ustreamといったデジタルメディアを駆使して勢力的に当日の実況中継を行った。ここでは、昨年に続きコアタイムに活躍した公認Twitter二人組、小川未来氏と岡慧慧氏による実況中継終了時のツイートを紹介。

「あと30秒で夜明けです。」4/20 5:04、「夜明け!!!コアタイム終了です!」4/20 5:06、「日比野氏: アートナイトの一番の場所はここ瞬間です。色んなものを見て、ときどき見そこねたりして歩いて。意外なところで発見があって、友達に会ったりして。そんな時間を過ごして朝を迎えると昨日までの時間と違う気がする。一番いい時間がこの時間です。」4/20 5:06、「日比野氏: みなさん今日は本当におつかれさまでした!」4/20 5:07、「これにて今年のアートナイトの実況も終了します。お付き合いいただきありがとうございました。」4/20 5:12

写真右:コアタイム終了時に行われた「日の出トーク」

